

開会あいさつ

卓 新平
大江平和 訳

尊敬する川田洋一所長、尊敬するご来賓の皆様、各界のご友人の皆様。金秋十月の北京におきまして、中日両国学術界の新しい友人と古い友人が、ここ中国社会科学院に一堂に会し、ともに「現代社会と宗教」というテーマをめぐって議論を交わしながら、現代社会における宗教の存在意義と発展のあり方、宗教がなう社会的役割と文化的機能について探究する運びとなりました。

今回のシンポジウムでは、中日両国における仏教と現代社会との関係を探究することに重点を置き、中日

両国において仏教が社会に対してどのように対応、あるいは貢献し、現代社会において宗教がどのように位置づけられ、その役割とは何かについて考えることになっております。こうした探究は、学術的価値を有するのみならず、それ以上に現実的意義をも有しています。

今回のシンポジウムは、中国社会科学院世界宗教研究所と日本の東洋哲学研究所との共催であり、両研究所がこれまで重ねてきた共催事業の成功を踏まえての、新たな相互協力の成果であります。その趣旨は、中日

両国の学術交流を推進し、中日両国人民の友情を深めることにあります。ここに、私は謹んで中国側主催者である中国社会科学院世界宗教研究所を代表し、遠方よりお越しくございました日本のご友人の皆様方に心から敬意を表するとともに、ご参会のすべての学者の皆様方に対し、衷心より御礼と歓迎の意を表します。

宗教と現代社会との関係、現代社会に宗教が存在し、発展していること、またその存在意義、社会的役割などについては、「冷戦」後の国際社会のなかで、ひときわ注目を集め、問いが投げかけられてきました。人々はさまざまに分析し、答えを求めてきましたが、その認識・評価の観点は多様であり、個々の認識・評価の間には大きな隔たりが存在し、統一的な見解は存在せず、共通認識も得難いように思えます。このような宗教に対する認識・評価は、政治、経済、文化、民族など、さまざまな面に具現されています。

現代社会は、ある一つの問題意識から宗教を考える一方、異なるどの宗教、あるいは同一宗教間の異なるどの宗派も、開放と閉鎖、進歩と保守、接近と疎外、

受容と排斥、適応と敵対など、さまざまな態度で現代社会と接触し、交流し、すり合わせを行い、調和・適応していると言えるでしょう。

したがって全体からみれば、社会と宗教との関係は、理想的な意味で調和、融合するに至っておらず、その反対に、相互に警戒心や猜疑心がくすぶり、防備がなされ、誤解が生じ、排斥が行われています。その結果、社会と宗教との衝突、宗教間の衝突は、しだいに人々の議論の焦点や注目の的となり、さらには現代社会の多くの人々が宗教を理解するにあたってのモデルや定説となっています。人々が「文明の衝突」を議論するときに話題にのぼるのは、多くが宗教間の衝突あるいは宗教が機縁となって惹き起こされる社会の衝突などです。

これは、信仰者が、宗教によって、現実の苦難・動乱から脱却し、世俗社会から超越する姿と、強烈なコントラストをなしています。このようなわけで、現実社会の宗教理解のあり方と、宗教の真実の社会に対する理解のあり方、この両者をいかに合致させられるか、

という問題が浮かび上がってくるのです。

実際、我々が、宗教が不可避免的に政治に巻き込まれ、そこから惹起される矛盾、衝突に注意するとき、それと同じように、宗教の人類文化に対する積極的な関わりや重要な貢献にも着目すべきであり、とくに、社会の発展のなかで何物にも代え難いほどの影響をおよぼす宗教間対話を、我々の認識上の盲点としてはなりません。

宗教における「成仏」、「成道」とは、まさに現実社会の苦境に対する「覚悟」や、そこから求められる「超越」のことであり、その「超凡脱俗」とは、社会の苦難からの解脱だけではなく、それ以上に、限りある人生にとって「救い」でもあるのです。このように、我々は、人類社会の調和、安穩、進歩の実現のために、宗教が社会に巻き込まれていくもう一つの側面、すなわち限りなく積極的に人生の再構築に関わり、人心の蘇生を促していくという側面にも目を向けなければならぬと思います。

「東洋の智慧」を特徴づけている仏教は、今回のシン

ポジウムにおいて、現代社会と宗教問題に注目する切り口となっています。インドの文化を起源とする仏教は、中日両国の最も核心の文化の代表ではありませんが、宗教が社会のなかで文化を再構築し、調和のとれた社会の発展に寄与する上で、模範を打ち立ててきました。しかも今なお宗教は文化の交流、集結や融合を促し続けており、注目すべき存在です。仏教は「一衣帯水」の中日両国の文化交流および発展において、重要な役割を果たしてきました。これまで中国で開催した二回にわたる世界仏教フォーラムも「調和のとれた世界は心から始まる」、「調和のとれた世界と人間関係」というあざやかなテーマのもと、宗教の伝播が、社会の調和、親睦、平和を促進させられることを明らかに示しました。

したがって、今日の私どものシンポジウムも、宗教と社会との間の衝突の可能性に警戒的な意識をもちながらも、宗教の積極的な意義を発掘し、宣揚し、宗教が現代社会の発展にとって貴重な価値を有し、社会発展を促進させる役割をもつということを明確に示して

いかなければなりません。

ご参会の学者の皆様が、マクロとミクロの角度からテーマにアプローチし、探究することによって、全体的な把握だけでなく、個別的に深く掘り下げることも可能となり、宗教と現代社会の最も理想的な関係、さらには、そうした関係を実現可能にする道筋を探り当てることもできるでしょう。私どもは、その理想的な姿の実現のために存在する宗教が、現代社会の望ましい発展と美しい未来のために、精神的な資源と現実的な保障を提供できることを願っております。その方向に向かって努力していくことによって、私どもは宗教の智慧を真に体得するとともに、社会の幸福をも勝ち取ることができるでしょう。

その意味におきまして、私どものシンポジウムが大成功を収めますようお願い申し上げます、あわせて皆様方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

(たく しんべい／中国社会科学院世界宗教研究所所長)

(訳・おおえ へいわ／東洋哲学研究所委嘱研究員)